

1. 予備摘果

(1) 実施時期（結実が良好又は確保されいる場合）

- 開始時期：満開後 10 日から (5/10～)＝サビの確認と凍霜害の危険回避
- 終了目安：満開後 25 日まで (5 月末)
- 予備摘果が遅れると第一次肥大が劣る。(干ばつ傾向だと更に劣る)



(2) 実施方法

- 残す番果：3・4・5 番果（1 番軸が短い・条溝果になり易い、6～8 番肥大不良）
 - ✧ 予備摘果の段階では 1 番果が一番大きいので、2 番目に大きい果実（1 番果の隣又は真上に位置する果実）を残すと概ね 3, 4 番果になる
- 残す果実：果柄が長い・大きい・形がよい
 - ✧ 結果枝：短果枝（基本は長果枝にはならせない）
 - ✧ 残す向き：果台が横向き、斜めを向いた果実、外向きの果実（袋掛けのしやすい位置）
- 落す果実
 - ✧ 主枝上で枝がほしい場所（永久樹で伸ばしたい主枝最先端は確実に摘果）
 - ✧ 果台が真上を向いた果そう：軸折れ、日焼け、枝すれ
 - ✧ 果台が真下を向いた果そう：肥大不良、変形果、低糖度
 - ✧ 無着葉果そう：肥大不良、低糖度
 - ✧ 肥大不良子花が結実した果そう（下図参照）：肥大不良、変形果

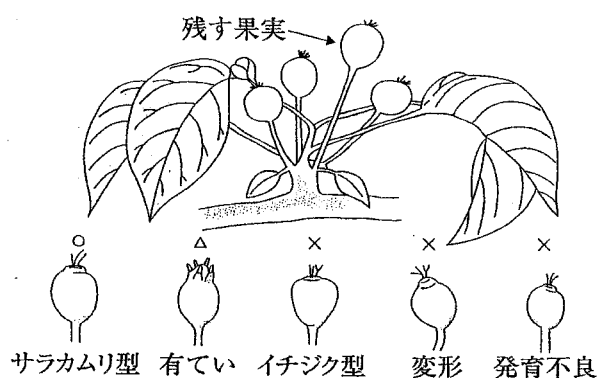


図 1 摘果で残す果実 (○) と落とす果実 (×)

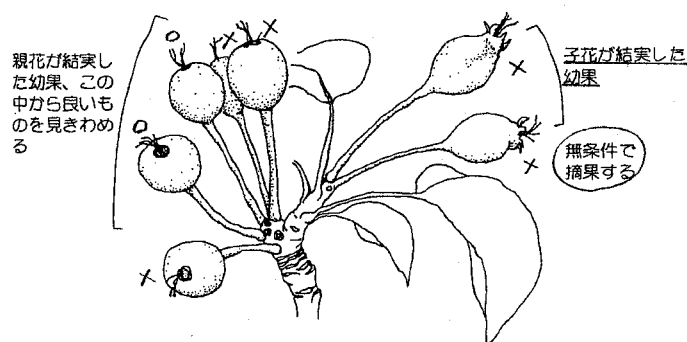


図 2 子花が結実した果そう

品種	利用結果枝	着果番花	果台の向き	10a 当りの着果量
二十世紀	短果枝中心	2～6 番花	横	16,000～18,000 果
幸水	長果枝 7 割、短果枝 3 割	3～5 番花	横～斜め	10,000～13,000 果
豊水	短果枝中心	2～4 番花	横	13,000～15,000 果
南水	短果枝中心	3～4 番花	横～斜め	10,000 果

表 1 なしの摘果方法と着果量

2. 新梢管理

① 摘芯

- 時期：摘芯する新梢が 15 c m 程度伸びた時から実施できるが、結実が悪い場合は梅雨明けまで様子を見て少し様子を見て実施する。
- 元葉 4～5 枚で摘芯（写真参照）
- その後も伸びる場合は繰り返し摘芯（4 芽切り＝ヨメコロシ）する。
- 先端新梢 2～3 本は、そのままにしておく。（特に北側は折れやすいので多目に残す）
- 側枝基部の強くなりそうな新梢は元から搔く。
- 側枝候補となる新梢は、早めに棚下にくぐらせておく。



写真 元葉 4～5 枚で摘芯

② 芽かき

- 予備摘果・仕上げ摘果・見直し摘果・袋かけ等の作業に合わせて年間を通じ実施する。
- ハサミで切るのではなく、手で搔けるうちに処理する。（赤芽のうちに）
- 主枝の中央部から先は樹勢強化のため芽搔きはしない。

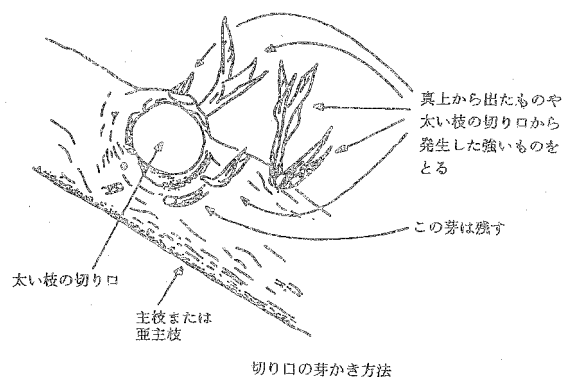


図 3 切り口の芽かき方法



◇ 予備摘果の留意点

- ① 満開後約3週間位で結実量や幼果のサビ等が十分確認できるようになる。よって、5月20頃を目安に園の状況を確認してから予備摘果作業に入る。
- ② 南水の結実量が極端に少ない場合は、予備摘果時期を遅らせ（6月上旬頃まで）、素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図る。
- ③ 結実量は、南水であれば、結果枝1mに5～6個の幼果が結実していることが目安。
- ④ 南水のていあ部の小さな裂傷・サビや赤道部のサビは、収穫時には目立たなくなるものが多いので、肥大の良い果実を優先的に残す。
- ⑤ 南水等に条溝果が多い場合もあるが、結実量が不足している場合は、それも含めて残すこと。
- ⑥ 低温の影響で発生が多い浮き皮の黄色味を帯びた果実は、時間の経過と共にほぼ回復するので、残しても良い。

◇ 仕上げ摘果の留意点

- ① 総結実量は多くないと予想されるので、素質がハッキリしてから最終的な摘果を行い、素質の極端に悪い果実から優先的に落とし、着果基準に近づける。
- ② 仕上げ摘果時は、果形・果面・果柄の長さ等を上下・左右からよく観察し、変形果やサビの発生程度の著しいものから摘果する。
- ③ 結実量が少ない場合は、樹勢が旺盛になり過ぎないようにするため、果形や肥大の劣る果実でも残しておく。
- ④ 同一樹内でも結実量に差があるため、結実良好な部分に多めにならせてもよい。
- ⑤ 新梢管理は、新梢の発生状況に応じて間引きや誘引等を行う。（あまり早期に実施せず梅雨明け後まで様子を見ること）